

## 「第 38 回岩盤力学に関するシンポジウム」プログラム

岩盤力学委員会では、岩盤工学および岩盤力学に関する最新の調査研究、技術の成果発表の場を広く提供するため、「岩盤力学に関するシンポジウム」を開催しております。また、岩盤力学委員会の研究小委員会によるパネルディスカッションを実施いたします。

下記の要領で「第 38 回岩盤力学に関するシンポジウム」を開催いたしますので、各界の技術者、研究者、学生などの多数の参加をお願いいたします。

### 1. シンポジウム案内

主催	土木学会(担当:岩盤力学委員会)
共催	岩の力学連合会, 資源・素材学会, 地盤工学会, 日本材料学会
期日	2009 年 1 月 8 日(木), 9 日(金)
場所	土木学会「土木会館」2 階 講堂, 会議室
講演集	第 38 回岩盤力学に関するシンポジウム講演集(CD-ROM 版, 参加費に含む)
参加費	当日申込:一般 7,000 円, 学生 3,000 円(事前申込(~2008/12/12):一般 6,000 円, 学生 2,000 円)
講演要領	口頭発表およびポスター発表の講演要領は、「6. 一般セッション講演要領」をご覧ください。
表彰制度	表彰対象 :シンポジウムにおけるすべての口頭・ポスター発表 賞の種類 :優秀講演論文賞・・・提出された原稿と発表の内容が非常に優れているもの。 優秀ポスター賞・・・ポスター発表の内容が優れたもの(ただし、提出された原稿が一定のレベルを満たしているもの)。 #優秀ポスター賞の選考には参加者の声が反映されます。受付にて投票用紙を配布いたしますので、優れたポスター発表をご記入の上、受付に設置された投票箱に入れてください。 表彰式 :シンポジウムの閉会式(1 月 9 日 15:30~15:45) 賞品 :楯, 賞状 表彰制度の詳細は、「7. 表彰制度」をご覧ください。
問合せ先	土木学会研究事業課 増永 克也宛 TEL:03-3355-3559/FAX:03-5379-0125/E-mail:masunaga@jsce.or.jp

## 2. 全体スケジュール

2009/1/8(木)

会場	9:20-9:30	9:30-11:30	12:30-14:00	14:00-15:00	15:00-16:30	16:40-18:10	18:10-20:00
第1会場 (講堂)	開会挨拶*	斜面および斜面災害 1 (発表 6 件)	パネル ディスカッション①	ポスター (発表 7 件)	斜面および斜面災害 2 (発表 5 件)	パネルディスカッ ション②	懇親会
第2会場 (AB 会議室)		建設事例 1(海外) (発表 5 件)			建設事例 2(海外・国内) (発表 5 件)		
第3会場 (CD 会議室)		グラウト (発表 6 件)			室内試験・模型実験 (発表 5 件)		

\* 開会挨拶:西脇 芳文(岩盤力学委員会 委員長)

2009/1/9(金)

会場		9:30-11:30	12:30-13:30	13:30-15:30	15:30-15:45
第1会場 (講堂)		トンネルと地下空洞 1 (発表 6 件)	ポスター (発表 7 件)	トンネルと地下空洞 2 (発表 6 件)	表彰式** 閉会挨拶***
第2会場 (AB 会議室)		透水性・浸透性 1 (発表 5 件)		透水性・浸透性 2 (発表 5 件)	
第3会場 (CD 会議室)		計測技術 (発表 6 件)		岩盤の性質, 評価 (発表 6 件)	

\*\* 表彰式:西脇 芳文(岩盤力学委員会 委員長)

\*\*\* 閉会挨拶:清水 則一(岩盤力学委員会 副委員長)

### 3. パネルディスカッション

#### (1) パネルディスカッション①(1月8日 12:30~14:00/会場:第1会場(講堂))

テーマ	「岩盤斜面崩壊のハザード抽出と評価に向けて」
担当	岩盤斜面のハザード評価研究小委員会
司会	進士正人 (山口大学)
パネラー	中井 卓巳 (アーステック東洋) 日外 勝仁 (土木研究所) 木戸 研太郎 (水資源機構) 浅井 健一 (土木研究所) 三木 茂 (基礎地盤コンサルタント) 小俣 新重郎 (日本工営)
内容	<p>岩盤斜面の崩壊を予知・予測することはチャレンジングな課題である。そのため、斜面ハザード評価研究小委員会では、斜面ハザードシナリオとしてすべての起こりうべき事象を抽出し、それぞれのシナリオ毎の影響評価をおこないトータルとして斜面の安定性を評価する方法を模索し、平成22年度出版を目指して「岩盤斜面崩壊のハザード抽出と評価(仮称)」のとりまとめを行っている。</p> <p>パネルディスカッションでは、これまで委員会活動を基に、斜面崩壊調査や崩壊履歴の調査から岩盤斜面に潜在するあらゆる種類のハザードをどのように抽出するか、調査結果からハザードシナリオを想定し、数値解析から斜面崩壊の影響度をどのように評価するかに関して全体の流れを報告すると共に、各機関における取組を紹介し、今後のとりまとめ方針に関する議論を行う。</p>

#### (2) パネルディスカッション②(1月8日 16:40~18:10/会場:第1会場(講堂))

テーマ	「岩盤工学による国際活動支援研究」
担当	岩盤力学による国際活動支援研究小委員会
司会	西脇芳文 (東電設計)
パネラー	岡崎 有二 (JICA) 橘田 正造 (筑波大学) 日野 隆 (大成建設) 金井 晴彦 (日本工営) 吉田 好男 (東電設計)
内容	<p>国内の建設需要が縮小するのに伴って、わが国の岩盤プロジェクトは減少している。一方、海外市場は今後も拡大することが予想されている。特に、東南アジアの経済活動は、昨今著しく活発になっている。しかしながら、道路などのインフラ設備、エネルギー施設の整備は遅れており、わが国もさまざまな支援要請を受けている。また、東南アジア以外の発展途上国からも、多種多様な技術支援の要請がきている。さらに、環境問題を解決するためのCDMも、注目されるようになってきた。</p> <p>わが国の建設技術者には、これまで多くの岩盤プロジェクトで得た経験を活かし、これらの要請に応え国際貢献することが期待されている。しかし、技術支援活動を円滑に進めるために必要な、マネジメント、設計基準等の条件整備が特に立ち遅れている。これらを背景として、わが国の岩盤工学の国際化のため、国際活動の現状を把握し、問題点および課題を明らかにするための協議を続けてきた。</p> <p>パネルディスカッションでは、今まで協議結果を基に、国際活動の問題点および課題について討議する。</p>

### 4. 懇親会(1月8日 18:20~20:00/会場:第1会場(講堂))

主催	土木学会
場所	第1会場(講堂)
参加費	1,000円(参加自由。シンポジウム開催当日会場にて受付、お支払いいただきます。)
	<p>【ビール片手に議論を!】</p> <p>懇親会(1/10 18:10~20:00)の時間帯もポスター発表を実施します。ビール片手に活発な議論が交わされることを期待しています。</p>

## 5. 一般セッションプログラム

### (1) 口頭発表セッション

#### ■『斜面および斜面災害 1』/1月8日(木) 9:30~11:30/会場:第1会場(講堂)/司会:島内 哲哉(明治コンサルタント)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
1	O	個別要素法による層状岩盤の不連続面進展シミュレーション解析 ○伊世 健太郎, 楠見 晴重, 山本 剛
2	O	岩盤斜面安定解析のための2次元個別要素モデル ○西村 強, 福田 毅, 辻野 考治
3	O	不連続変形法による岩盤斜面における地震時の動的挙動解析 ○嶋岡 計亮, 小山 倫史, 西山 哲, 大西 有三
4	OP	Parameter Determination of Multi-tank Model with Dynamically Dimensioned Search ○熊 俊, 大西 有三, 高橋 健二, 小山 倫史
5	O	観測データの有効利用及び数値解析による落石の予測についての検討 ○伊藤 孝, 曹 増延, 鳥羽瀬 孝臣
6	O	個別要素法を用いた落石シミュレーションの定数設定法に関する検討 ○表 真也, 岡田 慎哉, 石川 博之, 伊東 佳彦, 日下部 祐基

#### ■『斜面および斜面災害 2』/1月8日(木) 15:00~16:30/会場:第1会場(講堂)/司会:上西 幸司(神戸大学)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
7	O	比抵抗・弾性波併用探査による老朽化法面の工学的評価法 楠見 晴重, 山本 剛, ○中村 真
8	O	無線センサネットワークを用いた活動斜面の傾斜量のモニタリング ○池川 洋二郎, 小早川 博亮, 澤田 昌孝, Ben A. Abbott, David A. Ferrill, Alan P. Morris, Ronald N. McGinnis
9	OP	無線センサネットワークによる土砂災害監視システムの開発 上出 定幸, ○小泉 圭吾, 尾上 一馬, 藤田 行茂
10	O	変状斜面における微小電位変動傾向と評価手法に関する考察 ○丹羽 廣海, 村山秀幸, 伊東佳彦, 日下部 祐基, 宍戸 政仁
11	O	現場落石実験から得られる斜面性状を考慮した速度比の特徴について 萩原 育夫, 佐々木 勝司, ○島内 哲哉, 中村 公一, 西山 哲, 大西 有三

#### ■『建設事例 1(海外)』/1月8日(木) 9:30~11:30/会場:第2会場(AB会議室)/司会:久慈 雅栄(前田建設工業)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
12	O	ルモン水力発電プロジェクト 導水路トンネルにおける出水と環境問題 ○金井 晴彦
13	O	アッパーチソカン揚水発電所の計画と設計 ○山岡 暁, 丸 清美, 佐野 裕一, 平川 芳明
14	O	東南アジアにおける水力発電所サージタンク立坑掘削に関する技術移転について 筒井 勝治, ○川口 雅樹, 米津 和哉
15	O	ムシ水力発電所の建設 (インドネシアでの地下発電所建設) ○馬場 孝治, 川島 基義, 横山 茂仁
16	O	ケニア国ソンドゥ・ミリウ水力発電所建設事業 導水トンネル建設報告 ○迫田 至誠

発表形式・・・O：口頭発表，P：ポスター発表，OP：口頭発表+ポスター発表

■『建設事例 2(海外・国内)』/1月8日(木) 15:00~16:30/会場:第2会場(AB会議室)/司会:下野 正人(大成建設)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
17	○	インドネシア国の火山灰地帯のトンネル掘削 西脇 芳文, ○鹿小木 唯夫, 釣 哲郎, 成田 伸哉, 吉田 好男
18	○	岩盤シールド型 TBM における岩盤強度推定の高精度化 ○亀山 克裕, 佐藤 隆信, 山下 雅之, 福井 勝則
19	○	ボスボラス海峡横断鉄道工事 -都市部山岳工法による大規模地下駅の設計と施工- 岩野 政浩, 土屋 正彦, 田口 洋輔, 金子 哲也, ○松村 謙治
20	○	ネパール国における最初の高規格有料道路プロジェクト ○三谷 哲, 稲見 多加夫
21	○	密閉型ボックス掘進機の巨礫層への適用性について ○森田 智, 島田 英樹, 笹岡 孝司, 松井 紀久男, 松元 文彦, 酒井 栄治

■『グラウト』/1月8日(木) 9:30~11:30/会場:第3会場(CD会議室)/司会:塚越 雅之(土木研究所)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
22	○	微生物代謝を利用したグラウトにおける炭酸カルシウム析出の温度依存性 ○小瀧 暁, 川崎 了, 広吉 直樹, 恒川 昌美, 金子 勝比古, 寺島 麗
23	○	グラウチングによる岩盤改良範囲と亀裂充填状況の評価—A Eの発生状況および透過弾性波の振幅変化に着目した方法 ○宇次原 雅之, 金川 忠, 藤井 真希, 阿部 義宏
24	○	結晶質岩中の地下坑道掘削を対象としたグラウト効果に関する研究 ○松井 裕哉, 田中 達也, 藤井 治彦, 竹内 真司, 弥富 洋介, 杉原 弘造
25	○	結晶質岩中の地下坑道掘削を対象としたグラウト効果に関する研究 (2) グラウト施工時の透水試験手法の改良 ○安藤 賢一, 竹内 真司, 松井 裕哉, 田中 達也, 橋本 秀爾, 藤井 治彦
26	○	結晶質岩中の地下坑道掘削を対象としたグラウト効果に関する研究 (3) プレグラウトによる湧水抑制効果の数値解析的検討 ○田中 達也, 松井 裕哉, 橋本 秀爾, 安藤 賢一, 竹内 真司, 三枝 博光
27	○	粘性の経時変化を考慮したグラウト注入過程の数値シミュレーション ○小山 倫史, 高橋 健二, 田村 晴彦, 小林 翼, 龍田 圭亮, 大西 有三

■『室内試験・模型実験』/1月8日(木) 15:00~16:30/会場:第3会場(CD会議室)/司会:安原 英明(愛媛大学)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
28	OP	理論解を用いた異方性供試体に対する圧裂試験によって生じる引張応力の解析 ○堤 隆, 上堀内 亮太, 岩下 寛
29	○	破碎した堆積軟岩の強度回復特性 ○羽柴 公博, 大久保 誠介, 福井 勝則, 雷 鳴
30	○	室内岩石試験における微小電位発生メカニズムと発生傾向の検討 ○宍戸 政仁, 伊東 佳彦, 日下部 祐基, 村山 秀幸, 丹羽 廣海, 長尾 年恭
31	○	軟岩の動的強度の数値モデル化 ○岡田 哲実, 伊藤 洋
32	○	切欠きを有する岩盤模型の遠心力模型実験による危険度評価法の適用例 ○日下部 祐基, 三浦 均也, 伊東 佳彦, 石川 博之, 表 真也

発表形式・・・○：口頭発表，P：ポスター発表，OP：口頭発表+ポスター発表

■『トンネルと地下空洞 1』／1月9日(金) 9:30～11:30／会場:第1会場(講堂)／司会:平川 芳明(ニュージエック)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
33	O	デジタル画像計測を用いた道路トンネルの健全性評価に関する研究 ○半田 兼一, 大西 有三, 西山 哲, 小山 倫史, 西川 啓一, 下澤 正道
34	O	高強度埋設型枠を用いたトンネル内巻補強工法の設計法の検討と実施工への適用 ○田中 俊行, 山本 拓治, 畝田 篤志, 一宮 利通
35	O	立坑掘削における内空変位の初期変形率と覆工コンクリート応力の相関 ○山崎 雅直, 津坂 仁和, 羽出山 吉裕, 南出 賢司, 高橋 昭博
36	O	3次元不均質モデルによるLPG岩盤貯槽掘削時の地下水挙動評価 前島 俊雄, 山本 浩志, ○宇野 晴彦, 池谷 貞右, 青木 謙治
37	O	主要割れ目を反映した3次元水理地質構造モデルによるLPG貯槽周辺の地下水挙動解析 ○下茂 道人, 掘田 渉, 下野 正人, 前島 俊雄, 山本 浩志, 青木 謙治
38	O	計測に基づく既設地下発電所挙動評価のケーススタディ ○柏柳 正之, 吉元 義隆, 石川 昌義, 清水 則一

■『トンネルと地下空洞 2』／1月9日(金) 13:30～15:30／会場:第1会場(講堂)／司会:宇野 晴彦(東電設計)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
39	O	山岳トンネル支保工の許容変位に関する一考察 ○目下 敦, 真下 英人, 水川 雅之
40	O	三次元内空変位計測データの有効な活用方法 ○小松原 渉, 進士 正人
41	O	押し出し性地山におけるリングカット工法の作用効果 ○林 久資, 長谷川 昌弘, 吉岡 尚也, 青木 一男, 菅 浩亮
42	O	浅い土かぶり下で側圧係数がトンネルリングカット工法に及ぼす影響 ○菅 浩亮, 林 久資, 長谷川 昌弘, 吉岡 尚也
43	O	トンネル特性曲線による支保効果の定量的評価に向けてー共通効果と断面閉合効果についてー ○木山 英郎, 西村 強, 畑 浩二, 中岡 健一
44	O	泥濃式破砕型掘進機を用いた巨石・岩盤推進の現状 ○松元 文彦, 森田 智, 松井 紀久男, 島田 英樹, 笹岡 孝司

■『透水性・浸透性 1』／1月9日(金) 9:30～11:30／会場:第2会場(AB会議室)／司会:澤田 昌孝(電力中央研究所)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
45	OP	花崗岩不連続面の透水実験—拘束圧・温度条件に起因する鉱物溶解の影響 ○重永 三郎, 西山 曜平, 木下 尚樹, 安原 英明
46	OP	移流分散効果の評価に関する割れ目ネットワークモデル解析コードの比較検証 ○岩野 圭太, 染谷 麻優子, 並川 正, 渡辺 邦夫, 佐々木 泰
47	O	岩盤不連続面のせん断透水試験と三乗則の適用性について ○岸田 潔, 中島 伸一郎, 安原 英明, 細田 尚
48	O	50cmスケールの花崗岩試料の研削による亀裂形状計測について ○澤田 淳, 鐵 桂一
49	O	花崗岩における水みち近傍の硬化原因に関する化学的検討 ○松下 智昭, 長田 昌彦, 竹村 貴人, 高橋 学

発表形式・・・O：口頭発表，P：ポスター発表，OP：口頭発表+ポスター発表

■『透水性・浸透性 2』/1月9日(金) 13:30~15:30/会場:第2会場(AB会議室)/司会:小山 倫史(京都大学)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
50	O	差圧応力下での来待砂岩の透水性に関する研究 ○高田 迪彦, 藤井 義明
51	O	立坑の冠水・排水時の湧水量・水圧観測データを用いた水理地質構造モデルの構築 ○熊本 創, 下茂 道人, 三枝 博光, 大山 卓也
52	O	三軸せん断過程における堆積軟岩の構造変化と透水性に関する実験的検討 ○河合 祐輔, 中島 伸一郎, 安原 英明, 岸田 潔
53	O	応力経路に依存した破壊挙動と透水特性に関する実験的研究 ○鈴木 健一郎, 竹村 貴人, 中岡 健一
54	O	一面せん断変形下における岩石の透水特性の変化 ○熊谷 聡之, 長田 昌彦, 朴 赫

■『計測技術』/1月9日(金) 9:30~11:30/会場:第3会場(CD会議室)/司会:長田 昌彦(埼玉大学)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
55	O	CO2 ハイドレートの生成熱による海洋堆積層の加温手法の検討 ○池川 洋二郎
56	O	無線式トンネル三次元反射法弾性波探査技術の開発 ○横田 泰宏, 山本 拓治, 名児耶 薫, 白鷺 卓
57	O	超音波反射・追尾方式流向流速計の計測データ信頼性向上に関する検討 ○田中 真弓, 戸井田 克, 竹延 千良, 西垣 誠, 大江 俊昭
58	O	メタンハイドレート分解過程における弾性波トモグラフィーの精度向上と適用性 ○三保 雄司, 斉藤 秀樹, 中山 栄樹, 谷 和夫
59	OP	岩盤工学における光による変位の可視化の一例 芥川 真一, ○森 翔矢, 渋谷 智明, 楠井 彩子
60	O	大規模地下発電所空洞における PS アンカーの軸力計測と検証例 芥川 真一, 中森 絵美, ○森本 紘太郎, 南 裕輔, 馬場 修二, 森 聡

■『岩盤の性質・評価』/1月9日(金) 13:30~15:30/会場:第3会場(CD会議室)/司会:竹原 孝(産業技術総合研究所)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
61	O	ON THE MECHANICAL DESTABILIZATION OF A THREE-DIMENSIONAL DISPLACEMENT-SOFTENING PLANE OF WEAKNESS ○上西 幸司
62	O	ON THE DYNAMIC INTERACTION BETWEEN GROUND AND A GROUP OF STRUCTURES SUBJECTED TO HORIZONTAL VIBRATIONS 上西 幸司, ○山村 浩毅
63	O	数値シミュレーションに基づくウイングクラックの普遍的な進展メカニズムに関する基礎検討 石井 建樹, ○伊藤 理大, 京谷 孝史
64	O	概要調査段階の処分空洞建設性評価ーボーリングコアを利用した評点式岩盤評価法ー ○澤田 昌孝, 新 孝一, 秦野 輝儀, 津田 延裕, 三和 公, 土 宏之
65	O	風化した大谷石表面の色調と工学的性質及び構成成分との関連について 佐藤 陽, ○清木 隆文
66	O	ヘッセ行列を用いた画像解析に基づく岩石の割れ目断面積の評価 ○安 昶完, 長田 昌彦, 高橋 学

発表形式・・・O：口頭発表，P：ポスター発表，OP：口頭発表＋ポスター発表

(2) ポスター発表セッション

■ポスター掲示期間:1月8日(木) 9:30~1月9日(金)15:45

■コアタイム:1月8日(木)14:00~15:00, 1月9日(金)12:30~13:30

■会場:第1会場(講堂)

講演番号	発表形式	タイトル・著者 (○は発表者)
4	OP	Parameter Determination of Multi-tank Model with Dynamically Dimensional Search ○熊 俊, 大西 有三, 高橋 健二, 小山 倫史
9	OP	無線センサネットワークによる土砂災害監視システムの開発 上出 定幸, ○小泉 圭吾, 尾上 一馬, 藤田 行茂
28	OP	理論解を用いた異方性供試体に対する圧裂試験によって生じる引張応力の解析 ○堤 隆, 上堀内 亮太, 岩下 寛
45	OP	花崗岩不連続面の透水実験—拘束圧・温度条件に起因する鉱物溶解の影響 ○重永 三郎, 西山 曜平, 木下 尚樹, 安原 英明
46	OP	移流分散効果の評価に関する割れ目ネットワークモデル解析コードの比較検討 ○岩野 圭太, 戸井田 克, 染谷 麻優子, 並川 正, 渡辺 邦夫, 佐々木 泰
59	OP	岩盤工学における光による変位の可視化の一例 芥川 真一, ○森 翔矢, 渋谷 智明, 楠井 彩子
67	P	高レベル放射性廃棄物の処分孔模型のX線CT撮影 ○西本 壮志, 岡田 哲実

注) ポスター会場を第1会場(講堂)とし, 懇親会中(1/8 18:20~20:00)もポスター閲覧ができるようにします. 発表者は可能な限りポスター会場に控えるようお願いいたします. 懇親会に参加されない方もご協力をお願いいたします.

発表形式・・・○: 口頭発表, P: ポスター発表, OP: 口頭発表+ポスター発表



## 6. 一般セッション講演要領

### (1) 口頭発表要領

- ・講演会の各セッションの運営は、当該セッションの座長に一任されています。
- ・各セッションの開始時刻 5 分前に、座長と発表者の打合せを、その会場で行ないます。その際、座長より、発表順番、発表時間、討論時間などについて指示がありますので、これを遵守してください。
- ・発表時間は原則として、入退場も含めて 12 分です。12 分以内に発表が完了できるように、準備をお願いします。(発表時間 12 分に質疑応答は含まれません)
- ・発表に際しては、液晶プロジェクターを使用します。パソコンの操作は、講演者自身でお願いします。(会場担当係では対応しかねますのでご了承ください)。
- ・液晶プロジェクターとパソコンは全セッションに用意します(ポスター会場を除く)。液晶プロジェクターの持込は禁止いたします。
- ・全ての口頭発表セッションで、液晶プロジェクターによる発表となります。OHP による発表はできませんのでご注意ください。なお、差し棒・レーザーポインタは用意いたします。

#### 1. 発表者が準備するもの

- (1) 発表者は、パワーポイントなどの発表用ファイルを保存した USB メモリあるいは CD-ROM(後述する 2. で指定した OS で読み取れるフォーマット)をご持参ください。各部屋に準備されたパソコンに事前にコピーして発表していただきます。なお、ファイルサイズは 100MB 以下を厳守ください。上記以外のメディアを持参されてもパソコンへのインストールは保障できません。
- (2) 発表用ファイルの名前は混乱を防ぐために講演番号をファイル名としてください。  
例: 講演番号.ppt (例えば、講演番号 95 の場合は、95.ppt となります。)
- (3) パソコンは会場設置のものをご利用いただき、持込パソコンの利用は原則禁止とさせていただきます。  
ただし、AVI ファイルなどの動画を組み込んだ場合で、会場用パソコンを利用しての発表が不適切な場合は許可いたします。その場合は、液晶プロジェクターと切替器(サンワサプライ SE-EV4)を介して発表者各自のパソコンを接続します。切替器からは端子付きケーブル(HD(3WAY)15pin オス(インチネジ))が出ており、これを各自のパソコン端子に接続していただきます。マッキントッシュ等異種端子のパソコンをお持ちの方は、ご確認のうえ、アダプター等をご用意ください。

#### 2. 会場で使用する液晶プロジェクターとパソコン

- (1) 今回使用する液晶プロジェクターは、以下の通りです。  
第 1 会場(講堂): Panasonic TH-L6500JL  
第 2, 3 会場(AB, CD 会議室): EPSON EMP-S1H(リアルタイム SVGA, 1400ANSI ルーメン)
- (2) 会場で使用するすべてのパソコンの基本仕様は次の通りです。これ以外のアプリケーションで作成された発表用資料の起動はできませんので、各自のパソコンを用意する等の対応をお願いします。  
PC: NEC PC-98NX VersaPRO シリーズ  
OS: Microsoft Windows XP Professional SP2  
プロセッサ: インテル PentiumM 1.1 GHz  
インストール済みアプリケーション: Microsoft PowerPoint 2003

#### 3. 発表会場における発表用データのインストール

- (1) 発表者の方は、当該セッション開始前の休み時間中に、講演会場設置のパソコンに、発表用ファイルをインストールしてください。また例外的に、持込のパソコンを用いて発表をされる方はパソコン接続ならびに投影チェックを各自で実施してください。
- (2) ファイルの立ち上げ等の操作は各自の責任で行ってください。持込のパソコンの場合、画面出力の操作はパソコンの機種によって異なります。
- (3) 発表者の方は会場前方席で待機していただくとともに、スムーズな進行に協力ください。
- (4) 発表終了後に、会場担当係が責任を持ってファイルを削除します。

#### 4. 不測の事態に備えて

- ・トラブルにより発表順が変更になる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

## (2) ポスター発表要領

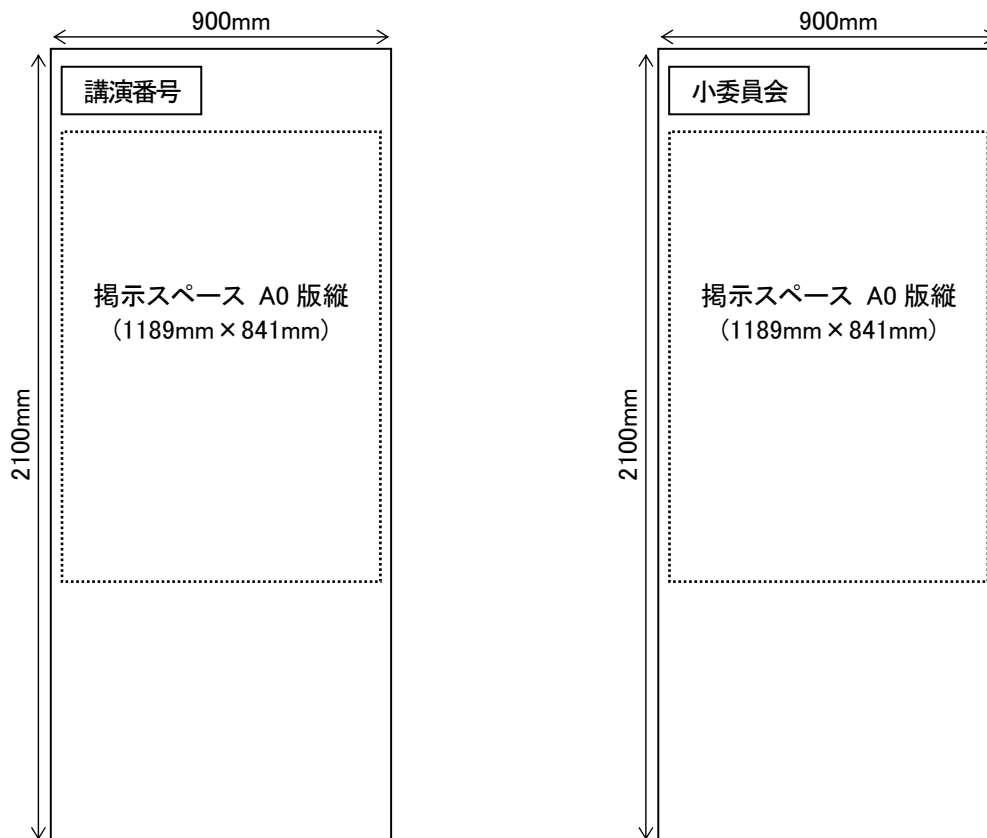
### 【掲示時間】

- ・ポスター会場は、土木学会講堂を使用します。
- ・掲示期間は、1月8日9時30分から1月9日15時45分までです。
- ・討議のためのコアタイムは、1月8日の14時から15時および11日の12時30分から13時30分です。この間、発表者はポスター会場に控えて下さい。
- ・優れたポスター発表者に対して表彰を行ないますので、発表者は1月9日閉会時に講堂へ集合して下さい。

なお、前回と同様に「ビール片手に活発な議論」をするため、今年度もポスター会場を第1会場(講堂)とし、懇親会中(1/8 18:20~20:00)もポスター閲覧ができるようにします。発表者は可能な限りポスター会場に控えるようお願い致します。懇親会に参加されない方もご協力をお願い致します。

### 【掲示方法】

- ・ポスター掲示用に、1発表あたり縦2100mm×横900mmのスペースを提供します(下図参照)。
- ・スペースの左上に講演番号を掲示していますので、該当番号の下にポスターを掲示して下さい。
- ・ポスターは、A0縦(1189×841)の範囲を使ってまとめて下さい。
- ・空きスペースは、写真や拡大図等の展示にお使い下さい。
- ・フォーマットは特に取り決めませんが、文字は1m程度離れた位置でも読める程度の大きさにして下さい。
- ・掲示の際は、事務局が提供する押しピンを用いて下さい(テープは不可)。
- ・パソコンを使用したの展示も可能です(ノートPC1台分の脇机を準備しますので、あらかじめ事務局までお知らせ下さい)。
- ・コンセントは事務局で用意しますが、パソコンは発表者が持参して下さい。



ポスター掲示パネル正面図

## 7. 表彰制度

<b>■概要</b>	岩盤力学委員会では、岩盤力学に関するシンポジウムにおいて表彰を行うことしております。表彰の対象は、シンポジウムで実施されたすべての口頭・ポスター発表です。選考は、提出された原稿、発表、ポスターにおいて、各種項目について審査を行い、受賞者を決定していきます。
<b>■賞の種類</b>	<p>優秀講演論文賞： 提出された原稿と発表の内容が非常に優れているものに贈られます。提出された原稿で、「応用性・実用性・重要性」、「新規性・将来性・発展性」について審査を行います。また、講演時には、「発表内容と研究の完成度」、「わかりやすさ」、「スライド資料の出来栄」、「質疑応答」について審査を行います。</p> <p>優秀ポスター賞： ポスターと講演内容が優れたものに贈られます。選考には、参加者の声が反映されることになります。（提出された原稿で、「応用性・実用性・重要性」、「新規性・将来性・発展性」について審査を行います。この時点で一定以上の評価を得ていることが受賞の条件になります。）</p>
<b>■表彰式</b>	受賞者の発表は、シンポジウムの閉会式（1月9日 15:30～15:45）で行います。受賞者には、盾と賞状が送られます。